

日本語の名詞と接辞「な」「に」「の」一名詞から修飾要素へー

塚脇 幸代

s-tsuka[at]dream.ocn.ne.jp

概要

日本語における名詞とそれに後接する「な」「に」「の」の語連続により、修飾要素に転換する語彙を BCCWJ から抽出し、修飾要素への転換可能な語彙を選択した。結果、「な」「に」「の」すべての接辞で修飾要素となりうる名詞を 600 語弱取得した。

キーワード: 名詞、形容動詞、形状詞、修飾要素、BCCWJ、中納言

はじめに

一般的に名詞や動詞を修飾する要素としてそれぞれ形容詞や副詞が存在するが、修飾要素となれる表現は一単語で構成されるとは限らない。本稿では名詞またな形容動詞語幹(形状詞)に接辞「な」「に」「の」が後接した場合に名詞または動詞を修飾する要素となる語を選び出す。

1. 方法

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)の検索系である中納言を利用し、表 1 に示す検索条件でデータを取得する。検索は「長単位」で「可変長」データに対して実行した。データバージョンは 1.1 である。検索条件 1 から 3 は名詞をキーに、4 から 6 までは形状詞をキーとする。また、検索条件 2 と 5 は動詞を被修飾語とし、それ以外は名詞を被修飾語と仮定している。中納言の仕様により、検索結果が 10 万件を超える場合、ダウンロードできるのは 10 万件までである。なお、これ以降、名詞-普通名詞-一般を N、形状詞-一般を AN と表記する。また、「な」「に」「の」を本稿では接辞と表現する。

表 1: 検索条件と取得したデータ件数

	キー[N AN]	後方共起 1	後方共起 2	検索結果 (件数) [A]	ダウンロード 件数[B]	取得率 (B/A)*100
検索条件 1	名詞-普通名詞-一般	書字形: 「な」	品詞: 名詞-普通名詞-一般	9,430	9,430	100%
検索条件 2	名詞-普通名詞-一般	書字形: 「に」	品詞: 動詞-一般	1,287,287	100,000	7.77%
検索条件 3	名詞-普通名詞-一般	書字形: 「な」	品詞: 名詞-普通名詞-一般	3,035,819	100,000	3.29%
検索条件 4	形状詞-一般	書字形: 「な」	品詞: 名詞-普通名詞-一般	401,764	100,000	24.89%
検索条件 5	形状詞-一般	書字形: 「に」	品詞: 動詞-一般	231,745	100,000	43.15%
検索条件 6	形状詞-一般	書字形: 「な」	品詞: 名詞-普通名詞-一般	71,391	71,391	100%
	計			5,037,436	480,821	9.54%

ダウンロードした 480,821 件のデータにはキーに指定した N または AN が 69,707 件含まれていた。これらの語彙の品詞(名詞か形状詞)、「な」「に」「の」のいずれが何件後接していたか(後方共起 1 の件数)、どのような語を修飾していたか(後方共起 2)をまとめて図 1 のような作業用のフォーマットを作成した。そこから、「な」「に」「の」のすべてが後接していたキー[N|AN]を選択すると、1,689 件が該当した。そのうち「な」「に」「の」が修飾要素とならないものを目視で取り除いた。取り除く基準として、(1)形態素解析誤り、(2)「な」が形式名詞「こと」などに接続する助動詞、(3)「に」が動詞の各要素、(4)キー[N|AN]と「な」「の」「に」だけで修飾要素とするには不安定(ようするに直観)、などとした。また選定のさい、後方共起 2 の名詞や動詞、元の文脈に加え、Web 検索結果なども参考にした。

図 1: 作業用フォーマット

no	lex	pos	ss1	sscnt1	mkey1	ss2	sscnt2	mkey2	ss3	sscnt3	mkey3
65891	陰気	AN	#な#	62	【部屋◎顔◎影◎樹◎に#		13	【感じ◎なる◎言っ◎なり◎言っ	1	【演技	
65900	陰鬱	AN	#な#	37	【仕事◎日◎口◎計◎に#		4	【黙り◎込み◎静まり◎の#	1	【色	
65907	陳腐	AN	#な#	29	【仕事◎発想◎考え◎言いま		8	【なっ◎する◎なっ◎の#	2	【ひと◎言◎話題	
65966	険悪	AN	#な#	33	【状態◎眼◎つき◎状態◎もの		29	【なっ◎なり◎かっ◎の#	3	【度◎度◎仲	
65968	陽	AN/N		1	【た◎ぼ◎こ		17	【あたる◎当て◎照らした◎さ◎う	6	【斜◎い◎光◎光◎光◎な◎か◎匂◎い	
65973	陽性	AN/N	#な#	1	【酒		25	【見える◎出◎反◎成◎の#	1	【樹◎種	

2. 結果

作業の結果、選定したキー[N|AN]を図 2 に示す。計 598 語が残った。斜体と下線で示した語の品詞は N であり、太字斜体は N ま

3-2 「な」「に」「の」の選定基準と問題点

目視での選定基準については上述したが、その基準は作業開始前に定まったものではなく、作業中に見つかった個々の問題を集約したものである。いずれの接辞においても、被修飾要素となる後方共起 2 に一つでも選定可能な語彙が含まれていれば選定対象とした。以下、それぞれの基準と問題点について述べる。

3-2-1 「な」の選定と問題点

「な」は名詞を修飾要素化する非常に強力な接辞である。したがって通例は修飾要素とならない語も、たちまち修飾要素と化す。出現数が少なく、見聞きした経験がない表現については直観が拒否反応を示しやすく、揺れが生じやすい。

また、「な」は助動詞「だ」の連体形にあたり、被修飾要素が「ため」「わけ」「こと」「はず」などの形式名詞群である場合、埋め込み分の一部である可能性が高く、直観的にも一つの表現として不安定さを感じる。

3-2-2 「に」の選定と問題点

「に」の第一の問題は、後接する動詞の「に」格との区別である。これらは後方共起 2 の動詞を見ながら排除した。迷ったのは動詞が「する」や「なる」の場合だったが、これも「～になる」「～にする」のような動詞の格と認めた。ただし、「黄色に光る」など、動詞の様態を示すと考えられる例については選定対象とした。したがって、多くの「する」や「なる」の用例を持ちながらも、結果として選定された語が存在する。このあたりの選定基準は議論のある所かと思うが、今回の作業では格解析時に格と認定しづらいものを選定する方針をとった。

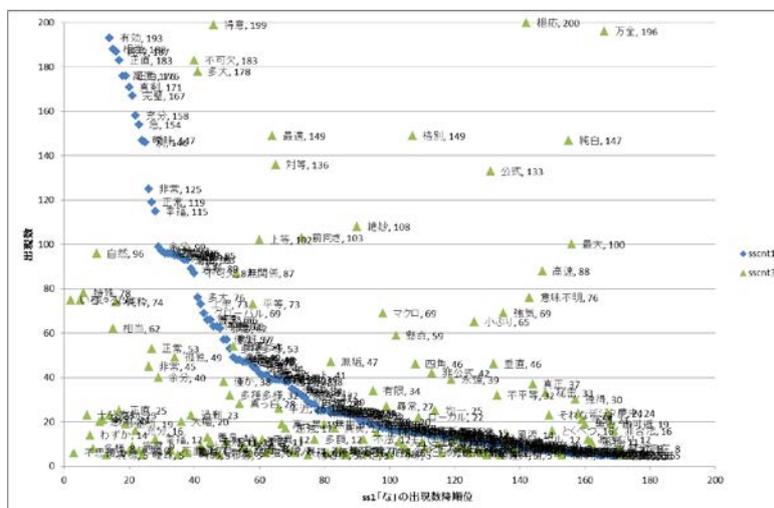
3-2-3 「の」の選定と問題点

「の」についても格が存在する。[N|AN]と被修飾要素が部分全体の関係にあったり、動作の対象であったり、範囲の規定である場合には選定から外し、基本的に被修飾要素の様態を示す場合に選定対象とした。一定して修飾要素かどうかを判別するには「の」用法を見分ける必要がある。

3-3 「な」と「の」の出現数と交替可能性

「な」「の」両方の接辞をとりうるキーは、名詞を修飾するために二通りの表現を持つと仮定される。しかし、両方の接辞が等しく使用されているかどうかは不透明である。図 4 は、選定後のキー[N|AN]が「な」とった件数と「の」とった件数をプロットしたものである。それぞれの接辞の出現数を 5 以上に限定し、「な」の出現数を降順に並べ替えてある。◆点が「な」の件数、▲点が「の」の件数をあらわす。◆点の下に▲点がプロットされた図の左下は「な」の件数が多く、◆点の上に▲点プロットされた図の右上のキー[N|AN]は「の」の件数が多かったことを示す。右上にある「万全」や「相応」、「公式」が「な」より「の」を好んでとるとするのは直観と乖離しない。ただし、この図における出現数は、選定前のままであり、特に「の」においては修飾要素でない例も含まれることを注記しなければならない。ここから正確を期するためには、選定後の出現数を得るとともに、次項に挙げる多義性の問題をも解決する必要がある。

図 4: 「な」「の」の出現数(出現数 200 以下)



また、図 5 にキーごとの「な」の出現数と「の」の出現数の割合を示す。いずれも頻度 5 以上を対象都市、両方の接辞が等しく用いら

